

平成29年度事業報告

自 平成29年10月1日 至 平成30年9月30日

I. 展覧会

1. 第46回「日本の書展」直轄展

下記の直轄4展を開催。46回直轄4展の出品者総数は3,584名で、45回展の3,463名に比べ121名増加。入場者数は、直轄4展合計で14,526名、前回の14,386名に比べ140名増加。出品者数、入場者数とも増加している。

41回展（平成25年）から行っている、図録1冊（現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載）および出品者本人の作品プロマイド2枚ずつの贈呈は、今展も引き続き行った。

また、43回展（平成27年）から各直轄展の会場で出品作家（主に役員）を講師としての1時間程度のギャラリートークを行っているが、各会場とも通常の土日よりも集客数が増し、内容も好評だったため、今展も引き続き行った。4展とも80～150名の参加者があり、作品解説に加え、作家紹介や展覧会を訪れた際の作品の見方など、トーク内容も多様で大変好評だった。

全展の展覧会場、開催披露祝賀会会場には、「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録推進運動の一環として、ポスターおよびバナーを掲示し、引き続き広報活動を行った。

(1) 関西展

会 期 平成30年5月3日（木祝）～5月5日（土祝）

会 場 マイドームおおさか（1、2階展示ホール A～D）

主 催 （公財）全国書美術振興会 産経新聞社

後 援 文化庁

協 賛 （公社）日本書芸院

開催披露祝賀会 平成30年5月3日（木祝）12:30～14:00

シティプラザ大阪 2階 「旬」

出席者 350名

ギャラリートーク 平成30年5月4日（金祝）14:00～15:00

マイドームおおさか（1階展示ホール）

講師 明石聡濤評議員

関西展の出品数は、巨匠14点、代表98点、委嘱32点、招待410点、秀拔選521点、合計1,075点、会期中の入場者数は1,949名だった（前回45回展の入場者数は1,597名）。産経新聞社の紙面協力、日本書芸院の協賛も得ている。

徐々に減少傾向にある出品数、入場者数と経費との兼ね合いで、経費削減のため、今回から会場を大阪国際会議場からマイドームおおさかに移動し、また、会期も例年5月末～6月頭に開催していたものを、5月の大型連休中に繰り上げて実施した。これにより会場借用料等が276万円の支出減になった。

会期初日の5月3日（木祝）の12時30分から、シティプラザ大阪2階「旬」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて350名の出席があった。展覧会場の移動に伴い、祝賀会会場も例年のリーガロイヤルホテルから、マイドームおおさか隣接のシティプラザ大阪に移動した。祝賀会では、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、産経新聞社取締役副社長・大阪代表 齋藤勉氏から共催者挨拶があった後、日本芸術院会員 井茂圭洞名誉顧問の乾杯発声で祝宴に入った。

大型連休中の展覧会、祝賀会だったが、共に前回は上回る入場者、出席者があった。

(2)中部展

会 期 平成30年5月23日（水）～5月27日（日）
会 場 名古屋市博物館（3階ギャラリー）
主 催 （公財）全国書美術振興会 中日新聞社
後 援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市
各県市教育委員会 東海テレビ放送
協 賛 （公社）中部日本書道会
開催披露祝賀会 平成30年5月24日（木）18:00～19:30
名古屋東急ホテル 3階 「ヴェルサイユ」
出席者 276名
ギャラリートーク 平成30年5月26日（土）14:00～15:00
名古屋市博物館（3階ギャラリー）
講師 伊藤仙游評議員

中部展の出品数は、巨匠14点、代表98点、委嘱17点、招待187点、秀拔選485点、合計801点、会期中の入場者数は2,244名だった（前回45回展は愛知県美術館ギャラリーで入場者数は2,711名）。中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。

愛知県美術館の改修工事に伴い、愛知県美術館ギャラリーが借用出来ないため、名古屋市博物館に全作品を展示することになった。会期も例年の6月上旬から5月下旬に繰り上がっている。ギャラリーの仮設パネルを使用し、更に自前の特設壁面も施工して801点全作品を展示することができた。ただし、愛知県美術館と比較して、名古屋市博物館の立地の影響のためか、入場者数は500名弱減少した。

会期2日目の5月24日（木）の18時から、名古屋東急ホテル3階「ヴェルサイユ」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて276名の出席があった。祝賀会では、当会高木聖雨代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、中日新聞社常任顧問 小山勇氏から共催者挨拶があった後、樽本樹邨顧問の書家代表挨拶へと続き、東海テレビ放送取締役事業局長 山口貢氏の乾杯発声で祝宴に入った。

(3)東京展

会 期 平成30年6月14日（木）～6月24日（日） 6月19日（火）は休館日
会 場 国立新美術館（展示室1A・1B・1C・1D）
主 催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社
後 援 文化庁
開催披露祝賀会 平成30年6月15日（金）12:30～14:15
パレスホテル東京 2階 「葵」
出席者 460名
ギャラリートーク ①平成30年6月16日（土）14:00～15:00
国立新美術館 展示室
講師 高木厚人理事
②平成30年6月23日（土）14:00～15:00
国立新美術館 展示室
講師 永守蒼穹監事

東京展の出品数は、巨匠14点、代表98点、委嘱43点、招待644点、秀拔選772点、東京展合計1,571点、他展の委嘱（関西展委嘱32点・中部展委嘱17点・九州展委嘱10点）も加わり、総展示数1,630点。会期中の入場者数は9,008名だった（前回45回展の入場者数は8,340名）。

会期2日目の6月15日（金）の12時30分から、パレスホテル東京2階「葵」において開催披露祝賀会を行い、来賓・出品書家・招待者合わせて460名の出席があった。祝賀会では、当会高木聖雨代表理事・理事長の主催者代表挨拶から始まり、衆議院本会議出席のためすぐに退席される衆議院議員・書道国会議員連盟会長 河村建夫氏の来賓祝辞、衆議院議員・書道国会議員連盟会長代行 塩谷立氏の乾杯発声を先に行い、その後、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、株式会社共同通信社代表取締役常務 岩永陽一氏の共催者挨拶、日本芸術院会員 井茂圭洞名誉顧問の書家代表挨拶で祝宴に入った。

公募臨書の併催で入選者やその家族等の来場者が、また、隣接する企画展の影響で外国人の来場者が年々増加の傾向にある。一方で、展覧会および祝賀会への出品者等の来場、出席が年々減少傾向にあり、特に今回の祝賀会は、前回より60名少ない460名の参加だった。

(4)九州展

会 期 平成30年6月28日（木）～7月3日（火）

会 場 福岡アジア美術館（7階企画ギャラリーABC）

主 催 （公財）全国書美術振興会 西日本新聞社

後 援 文化庁

開催披露祝賀会 平成30年6月28日（木）18:00～19:30

ホテルオークラ福岡 4階 「平安の間」

出席者 102名

ギャラリートーク 平成30年6月30日（土）14:00～15:00

福岡アジア美術館（7階企画ギャラリー）

講師 山口耕雲現代書壇代表作家

九州展の出品数は、巨匠14点、代表98点、委嘱10点、招待137点、秀拔選214点、合計473点、会期中の入場者数は1,325名だった（前回45回展の入場者数は1,738名）。西日本新聞社の紙面協力を得ている。

例年、展覧会場は福岡アジア美術館の7階企画ギャラリーと8階交流ギャラリーの両スペースを借用しているが、今回は美術館側の事情により、7階企画ギャラリーしか借用できず、中間日に当たる6月30日（土）の夜間に招待、秀拔選作品の掛け替えを行うことで対応した。九州展の開催時期は梅雨である上に、高確率で台風の影響を受けやすく、今回も交通網が乱れる大型台風と重なった。連日の雨と台風で、入場者数もかなり減少した。

会期初日の6月28日（木）の18時から、ホテルオークラ福岡4階「平安の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品書家・招待者合わせて102名の出席だった。レセプションでは、当会高木聖雨代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、西日本新聞社事業部長 安武弘子氏から共催者挨拶があった後、九州国立博物館館長 島谷弘幸氏の来賓挨拶・乾杯発声で祝宴に入った。

2. 第45回および第46回「日本の書展」巡回展

会 期 第45回巡回展 平成29年7月～平成30年4月

第46回巡回展 平成30年7月～平成31年4月

会 場 第45、46回展とも地方8カ所で開催

主 催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社 各地元新聞社

後 援 文化庁

現代書壇巨匠と現代書壇代表巡回作品（第45回展106点、第46回展112点）については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方8カ所を巡回。
現在、第45回展は終了、第46回展は1番目の富山展のみ終了した。

第45回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地		地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館	29.7.20～7.23	195	1,463
2	島根	松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	29.8.31～9.4	198	639
3	青森	青森市	東奥日報社	青森市民美術展示館	29.9.14～9.18	282	654
4	広島	広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店 8・9階催事場	29.9.28～10.3	615	18,296
5	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	29.10.18～10.23	547	4,695
6	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	30.2.15～2.18	208	3,358
7	長野	長野市	信濃毎日新聞社	ながの東急百貨店	30.3.1～3.6	224	1,963
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	30.4.14～4.19	263	1,953

※白部分が、今年度（平成29年度）事業

第46回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地		地元主催新聞社	会 場	会 期	地元作品数	入場者数
1	富山	富山市	北日本新聞社	富山県民会館	30.7.12～7.15	183	1,686
2	鳥取	米子市	山陰中央新報社	米子市美術館	30.9.1～9.4	200	619
3	青森	青森市	東奥日報社	青森市民美術展示館	30.9.6～9.10	275	654
4	広島	広島市	中国新聞企画サービス	福屋広島駅前店 8・9階催事場	30.9.27～10.2	595	14,053
5	岡山	岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階 葦川会館	30.10.17～10.22	494	4,800
6	奈良	奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	31.2.20～2.24	—	—
7	長野	長野市	信濃毎日新聞社	ながの東急百貨店	31.2.28～3.5	—	—
8	茨城	水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	31.4.13～4.18	—	—

※白部分が、今年度（平成29年度）事業

3. 第46回「日本の書展」東京展 公募臨書

会 期 平成30年6月14日（木）～6月24日（日） 6月19日（火）は休館日

前期展示 平成30年6月14日（木）～6月18日（月）の5日間

後期展示 平成30年6月20日（水）～6月24日（日）の5日間

会 場 国立新美術館（展示室1Dの一部 51～53室の3室）

主 催 （公財）全国書美術振興会 共同通信社

後 援 文化庁

2012（平成24）年の第40回から東京展に新設・併催された公募臨書も今回7回目となる。出品点数は952点で、前回の962点より10点減で、ほぼ安定した点数を保っている。

平成30年1月18日に、国立新美術館審査室で審査委員10名による入選・落選の審査鑑別を行ったが、入選率50%を念頭に置いた審査をし、結果、入選数は458点、入選率は48.1%となった。内訳は下表参照。

出品整理料は前回同様2,000円。入選作品は表具をして国立新美術館の51～53の3室に展示、壁面展示は前回同様2段掛けとした。前回からよこ作品の寸法規定を半切から半切1/2に変更、前回よりたて作品が25点増え、よこ作品が44点減ったために、壁面展示数が増加した。

展示後、入選者には表装作品と共に、一色白泉参事筆耕の「入選証」が贈られ好評だった。

第46回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示	机上展示		計
	たて	よこ	篆 刻	
前期展示	180	48	3	231
後期展示	180	44	3	227
入選数合計	360	92	6	458

第46回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢 字		か な		篆 刻
	たて	よこ	たて	よこ	
	3 4 4	1	1 6	9 1	6
	3 4 5		1 0 7		
入選数合計	4 5 8				

Ⅱ.「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム(ワークショップ)

名 称 筆もじにトライ! オリジナルうちわを作ろう

日 時 平成30年8月11日(土祝)

Aコース 13:00~14:10 Bコース 15:30~16:40

平成30年8月12日(日)

Cコース 10:30~11:40 Dコース 13:00~14:10

Eコース 15:00~16:10

場 所 3331Arts Chiyoda (アーツ千代田 3331) コミュニティスペース

参加費・材料費 無料

対 象 3歳~小学校3年生までの子ども

定 員 各コース24名(2日間で5コースを設定) 計120名

助 成 独立行政法人国立青少年教育振興機構・子どもゆめ基金助成活動より41万円の助成

指導者 鹿倉碩齋氏、角田大壤氏、松浦龍坡氏、上籠鈍牛氏

広 報 チラシ1,360部を以下に設置

- ・3331 Arts Chiyoda (アーツ千代田 3331)
- ・千代田区内児童館、学童クラブ、子育てひろば 台東区・文京区内児童館
- ・第46回「日本の書展」関西展・中部展・東京展 展覧会場

ウェブサイト

- ・全国書美術振興会ホームページ
- ・3331 Arts Chiyoda (アーツ千代田 3331) ホームページ
- ・子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」(無料掲載)

子どもゆめ基金の助成を受けることも、子ども向けの体験教室を開催することも初の試みであった。

初回ということで、3歳から小学校3年生までの子どもが楽しく無理なく体験が出来るプログラムはどのようなものか、子どもを持つ保護者がどんな方法でこの企画を知るのか、定員数を集めるにはどうしたらいいかなどたくさんの難関はあったが、指導者の先生方が子ども向けのワークショップの経験者であったことから、終始指導を仰ぎ、協力を得ながら、準備から本番までを無事、そして成功裡に終了することができた。

子どもは、床で座布団に座っての体験だったが、姿勢よく正座で取り組む姿も見受けられた。「文字の成り立ち」をクイズ形式で出題する、水書き用紙で練習させる、子どもの名前をひらがなと漢字で書いて席札兼手本兼持ち帰りの記念品とする、うちわには子どもの喜びそうな図柄を30種程準備する、完成したうちわには名前の頭文字スタンプの押印と日本書道ユネスコ登録推進協議会ロゴマークシールの貼付を行う、固形墨の墨磨り体験コーナーを準備するなど、子どもが楽しく飽きずに体験や物作りができる様々な工夫をした。これを2回目にも繋げていきたい。

参加人数 113人（2日間合計）

参加年齢分布

	Aコース	Bコース	Cコース	Dコース	Eコース	年齢別計	参加年齢の割合
3歳	3	1	1	3	2	10	9%
4歳	1	3	2	2	1	9	8%
5歳	3	3	5	4	6	21	19%
6歳	6	5	2	1	5	19	17%
7歳	5	4	6	2	4	21	19%
8歳	1	1	2	7	3	14	12%
9歳	1	3			1	5	4%
不明	2	4	2	4	2	14	12%
クラス計	22	24	20	23	24	113	

収支状況

収 入		支 出	
助成金交付決定額	400,000	謝金・旅費	129,280
附帯事務費	10,000	会場費	201,240
		通信運搬費	30,240
		備品・消耗品費	101,865
		その他	19,576
収入計	410,000	支出計	482,201

Ⅲ. 書写・書道教育推進協議会

活動報告は別紙にて。

Ⅳ. 日本書道ユネスコ登録推進協議会

活動報告は別紙にて。

Ⅴ. 機関誌および書美術に関する出版物刊行ほか

1. 展覧会作品集等の制作

(1) 第46回「日本の書展」直轄展

①図録 4,430部

現代書壇巨匠・現代書壇代表・全展委嘱作品図版をオールカラー刷りで掲載。

巻末には、全展招待・秀拔選作家を含む全出品者名簿を掲載。

各出品者には、1冊ずつ贈呈。

②出品者本人の作品ブロマイド 7,420枚

展覧会名・姓号入り はがきサイズ カラー写真 非売品。

各出品者には、出品者本人のブロマイドを2枚ずつ贈呈。

(出品者3,570名×2枚ずつ、現代書壇巨匠14名のみ×20枚ずつ)

③出品者名簿 関西展 13,500枚

中部展 11,300枚

東京展 21,350枚

九州展 6,720枚

④案内はがき 123,000枚

⑤ポスター 580枚

⑥外国人向け展覧会概要リーフレット 300枚

(2)第46回「日本の書展」巡回展

図録（直轄展と同図録） 900部

(3)第46回「日本の書展」公募臨書

①入選者名簿 1,650枚

②入選證 510枚

(4)第47回「日本の書展」公募臨書

出品要項 22,000枚

2.「子どもゆめ基金」助成子ども体験プログラム 第1回「筆もじにトライ!」の制作

応募チラシ 1,360枚

3. 機関誌「書美術」第35号

4,350部 平成30年3月1日に発行

4. ホームページの更新

5. スマートフォンカバー「One Cover」の発売

VI. 書美術功労者の顕彰

日本芸術院賞を受賞された土橋靖子理事の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以 上